

<教科に関する調査結果（学力調査と生徒質問紙）から>

国語・数学の各教科とも平均正答率が奈良県・全国の平均を上回っています。特に知識・技能の観点に当てはまる問題について、高い正答率でした。基礎・基本となる学力の定着ができているとみられます。

【国語】

文章の全体と部分の関係に注意しながら、主張と例示の関係を捉えることができている。複数の文章を読み比べたり、図が果たす役割について考えたりするだけでなく、叙述の内容が果たす役割について考える活動を説明的な文章の学習において、ICT 端末を使いながら班で考える活動を行ってきた。また、学習内容の見通しを立て、客観的に学習を振り返る活動を3年間行ってきた成果と考える。

「話し合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する」問いが2問出題されており、本校の正答率はいずれも全国平均と同程度にとどまっている。

一つの文章を読み取る能力は育まれている一方、様々な立場の人物の意見を客観的に捉えることが苦手だと考える。班での対話的な活動は行っているものの、自分の意見を発表し合うことで終わっているのが問題だと考えられる。互いの意見を比べる学習活動を充実させていく必要がある。

【数学】

「問題場面における考察の対象を明確に捉え、正負の数の加法の計算ができる」「2つのグラフにおける y 軸の交点について、事象に即して解釈することができる」等の「知識・技能」の観点にあたる問題について高い正答率である。授業の初めに計算に取り組む時間を設けるなど、基礎基本を大事にして、繰り返し演習をしたことが成果につながったと思われる。また、説明する問題は、根拠になる部分を大切に、筋道を立てて説明することを丁寧に指導してきたことがよかったと思う。

一方、「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。」「データの傾向を的確に捉え、新たな事柄を見だし、説明することができる」等のデータから読み取ったことをもとにさらに思考を深めるような問題を苦手としている。また、数学的に説明をすることが求められる問題等、見通しを持って解答に向かうような問題では無回答が多い。

今後は、グループワークの中で考えを交流し合うなど、筋道を立てて説明する場面を作ったり、学習したことが身のまわりのことに活用できる題材に取り組んだりするなどの改善が必要である。

＜生活・行動や考えに関する調査結果から＞

「朝食を毎日食べている」や「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」など、基本的な生活習慣が身についている。また、学校の授業時間以外で、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり2時間以上、学習に取り組んでいるなど、学習する習慣が身についている。

さらに「自分と違う意見について考える」や「話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりする」など、話し合い活動について、楽しいまたはできていると答えている割合が高い。

教科や学活・道徳・総合の取り組みで、話し合い活動を積極的に取り入れて授業や活動を行ってきた。

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善や「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図ることが今回の指導要領の趣旨である。本校の多くの生徒が回答していることからICT機器の活用することが学びを深めることに効果があると考えられる。

本校生徒は内面には夢・目標があり、困っている人を助けようとする優しさや友人を大切にすることができる力をもっていながらも、それらを発信したり、行動に移すことができたりする自信や勇気のない、いわゆる自己肯定感が低い生徒が多いということが課題である。

自身の思いをはっきりと伝え、相手の気持ちを考えた行動をとることができるような環境を提供し、それぞれの行動に対して教師側が積極的に認め、評価することで、少しでも、自信をもって自分の思いを発信し、同時に、相手のことを思いやることのできる生徒の育成を目指したい。